

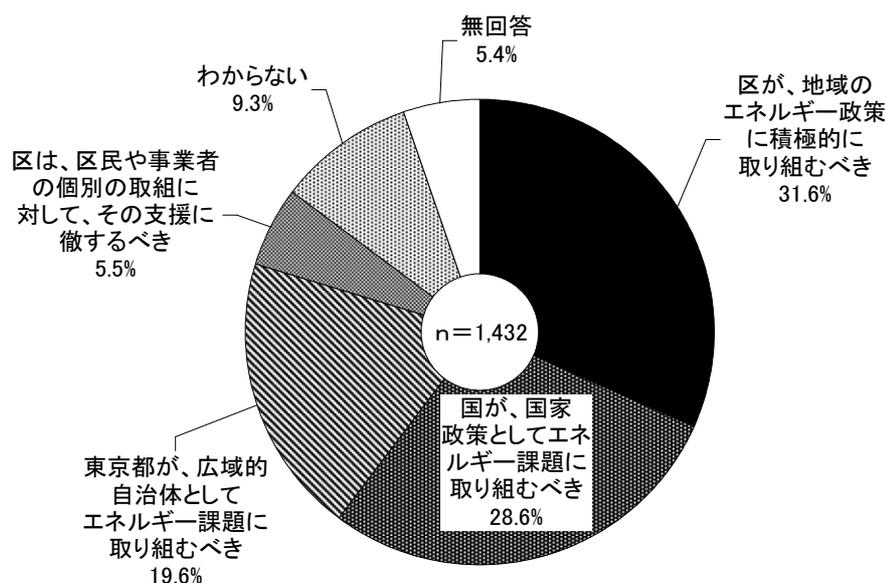
## 4 エネルギー施策について

### (1) 地域に必要なエネルギー政策

◇「区が、地域のエネルギー政策に積極的に取り組むべき」が3割を超える

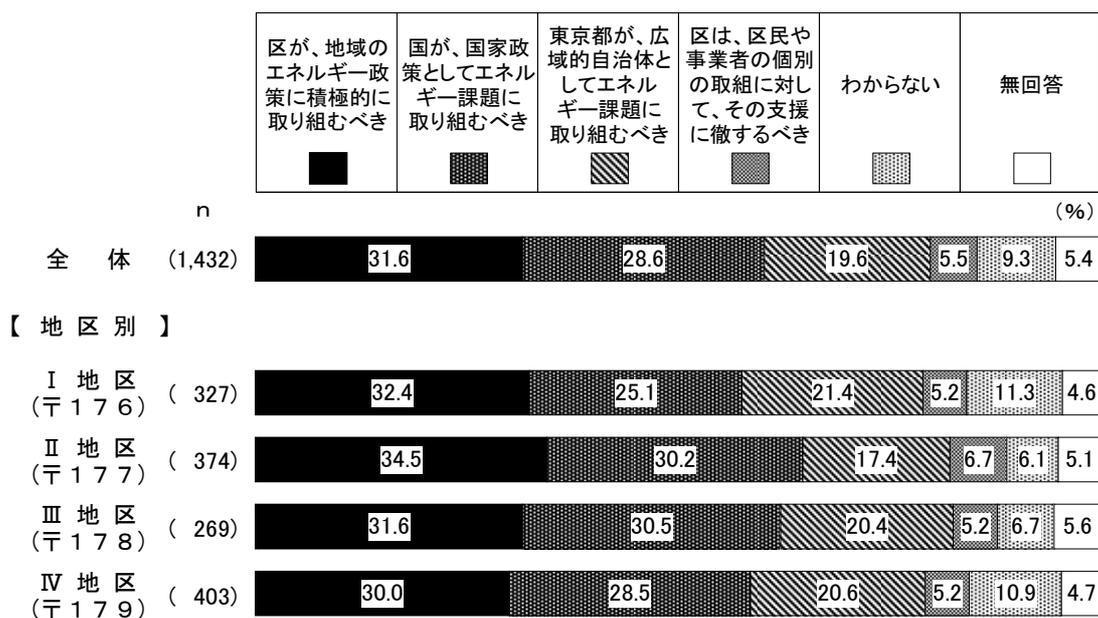
問27 地域に必要なエネルギー政策の取組推進にあたって、次の中からあなたの考え方に最も近いものを選んでください。(〇は1つ)

図4-1-1 地域に必要なエネルギー政策



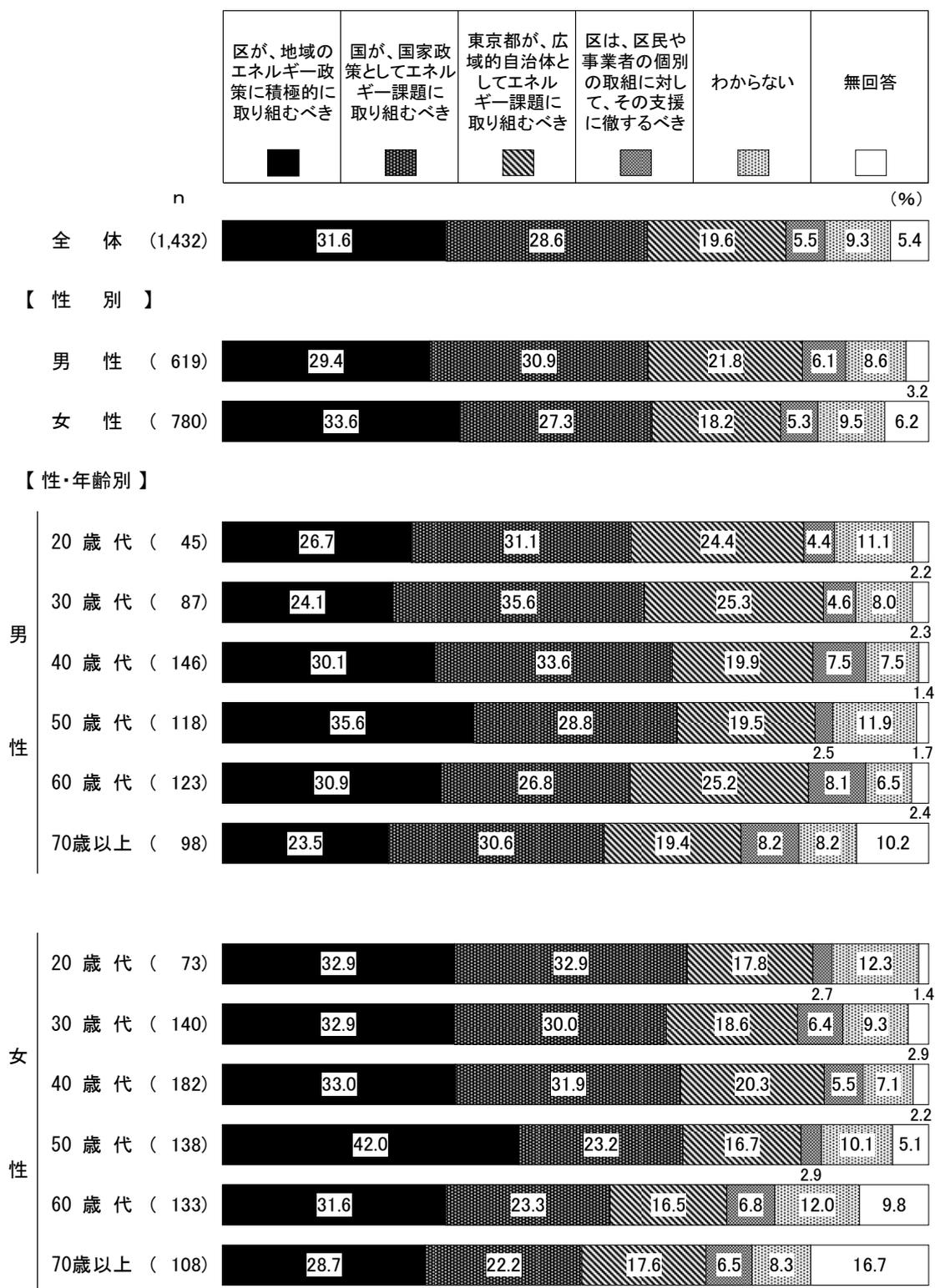
地域に必要なエネルギー政策について聞いたところ、「区が、地域のエネルギー政策に積極的に取り組むべき」(31.6%)が3割を超えて最も多く、次いで「国が、国家政策としてエネルギー課題に取り組むべき」(28.6%)、「東京都が、広域的自治体としてエネルギー課題に取り組むべき」(19.6%)などの順になっている。(図4-1-1)

図4-1-2 地域に必要なエネルギー政策—地区別



地区別にみると、「区が、地域のエネルギー政策に積極的に取り組むべき」はII地区（〒177）で3割半ばと多くなっている。「国が、国家政策としてエネルギー課題に取り組むべき」はII地区（〒177）とIII地区（〒178）でほぼ3割と多くなっている。（図4-1-2）

図 4-1-3 地域に必要なエネルギー政策—性別、性・年齢別



性・年齢別にみると、「区が、地域のエネルギー政策に積極的に取り組むべき」は女性50歳代で4割を超えて多くなっている。「国が、国家政策としてエネルギー課題に取り組むべき」は男性30歳代で3割半ばと多くなっている。(図4-1-3)

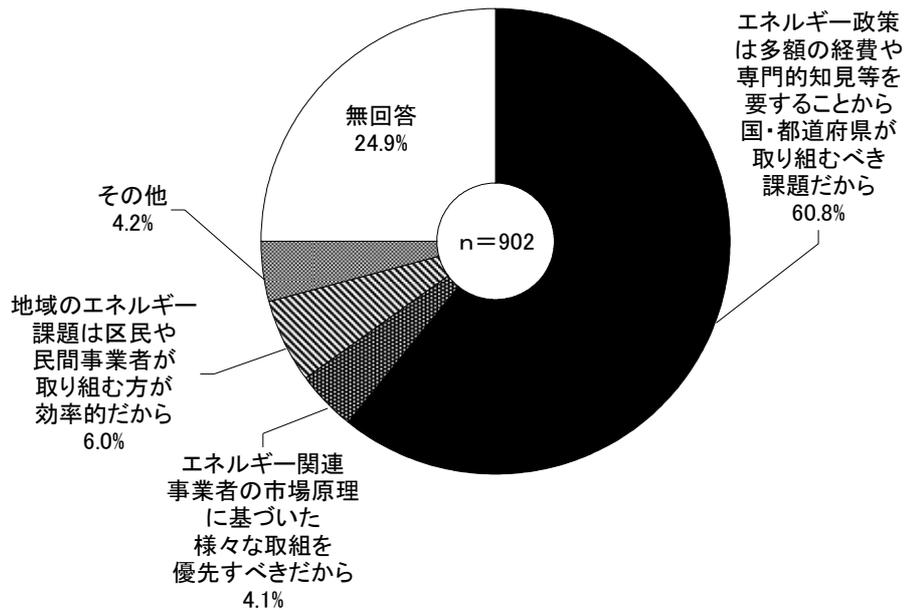
(1-1) 区以外がエネルギー政策に取り組むべきと考えた理由

◇「エネルギー政策は多額の経費や専門的知見等を要することから国・都道府県が取り組むべき課題だから」がほぼ6割

(問27で「区が、地域のエネルギー政策を積極的に取り組むべき」以外を回答した方へ)

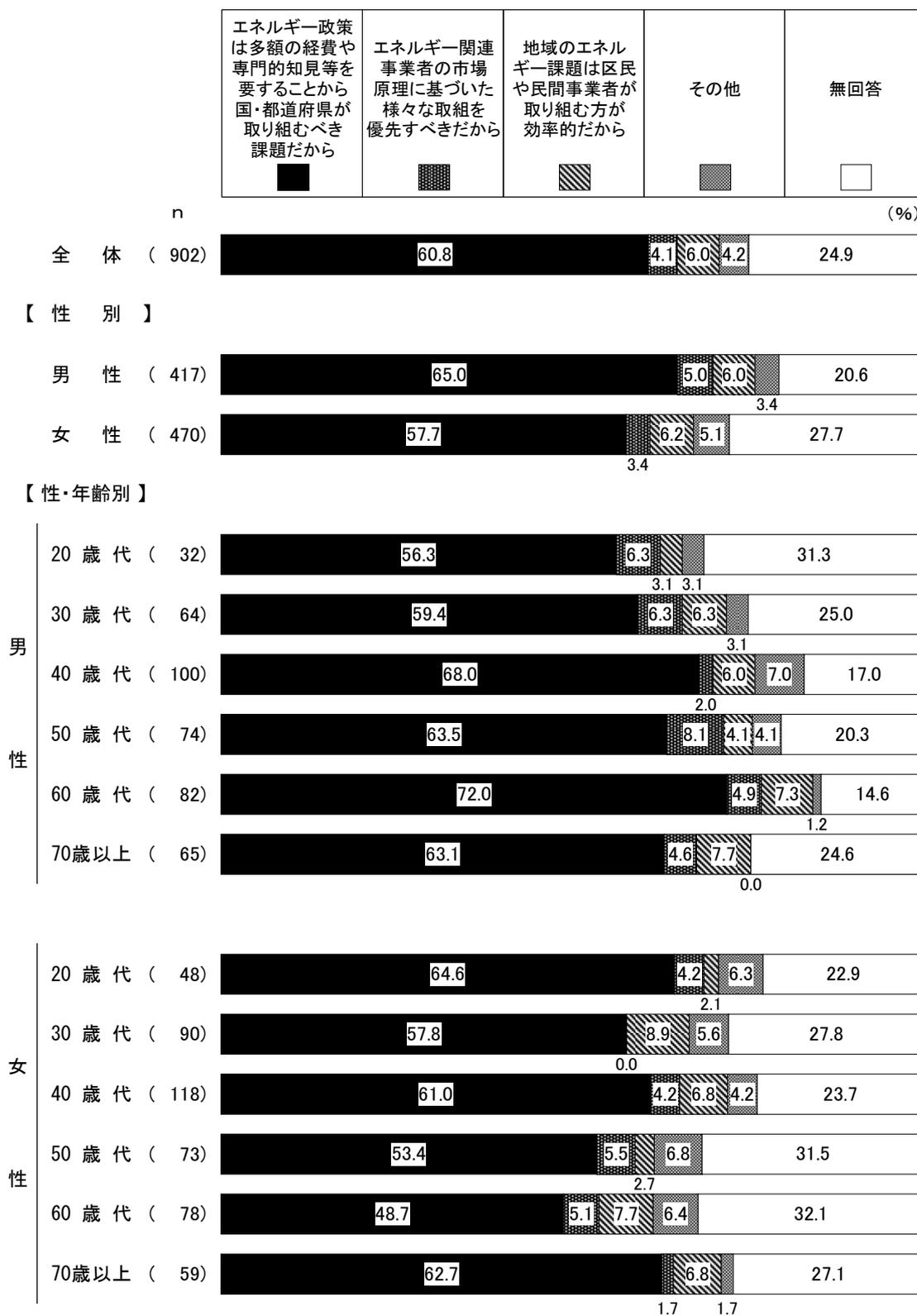
問27-1 あなたがその考え方を選んだ理由は次のどれですか。(○は1つ)

図4-1-4 区以外がエネルギー政策に取り組むべきと考えた理由



地域に必要なエネルギー政策について、「区が、地域のエネルギー政策に積極的に取り組むべき」以外と答えた方(902人)に、その考え方を選んだ理由を聞いたところ、「エネルギー政策は多額の経費や専門的知見等を要することから国・都道府県が取り組むべき課題だから」(60.8%)がほぼ6割で最も多くなっている。(図4-1-4)

図 4-1-5 区以外がエネルギー政策に取り組むべきと考えた理由—性別、性・年齢別



性・年齢別にみると、「エネルギー政策は多額の経費や専門的知見等を要することから国・都道府県が取り組むべき課題だから」は男性60歳代で7割を超え、男性40歳代で7割近くと多くなっている。

(図 4-1-5)

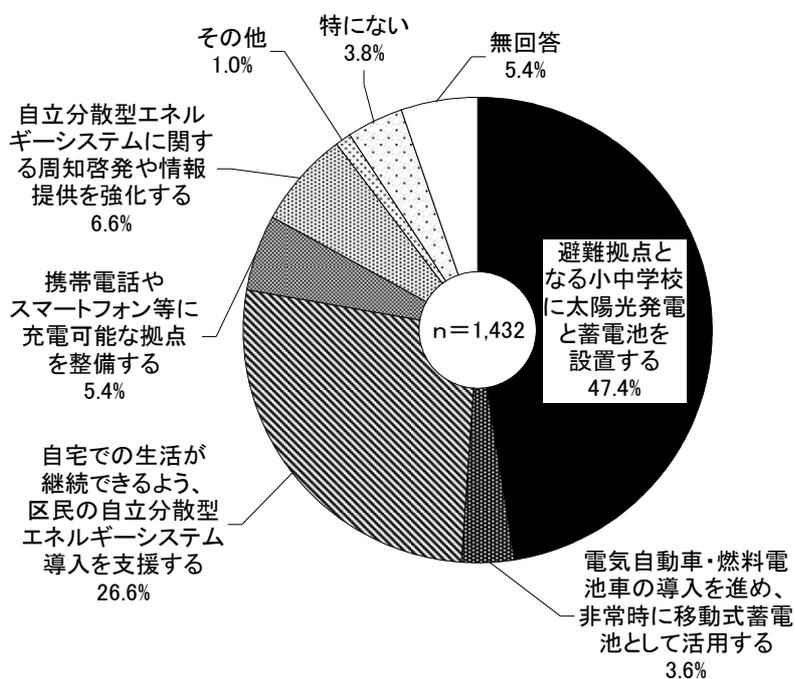
(2) 優先すべき災害時のエネルギー政策

◇「避難拠点となる小中学校に太陽光発電と蓄電池を設置する」が5割近く

問28 区は、①災害時のエネルギーセキュリティの確保 ②自立分散型エネルギーシステムの普及拡大 ③省エネルギーの推進を3つの柱として、自立分散型エネルギー社会の構築に取り組むことが必要と考えています。

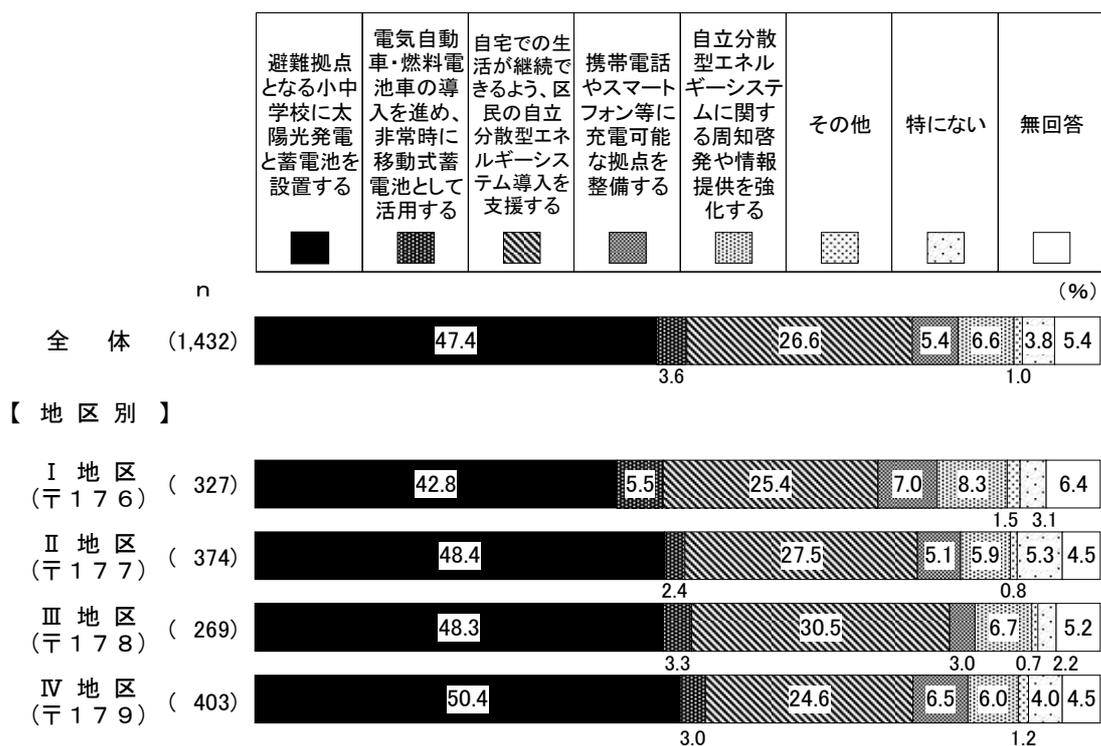
なかでも東日本大震災の際に、練馬区でも計画停電やガソリン不足などの影響があったことから、災害時のエネルギーセキュリティの確保が最重要課題であると考えています。あなたは、次のどの取組を優先して進めたらいいと思いますか。(〇は1つ)

図4-2-1 優先すべき災害時のエネルギー政策



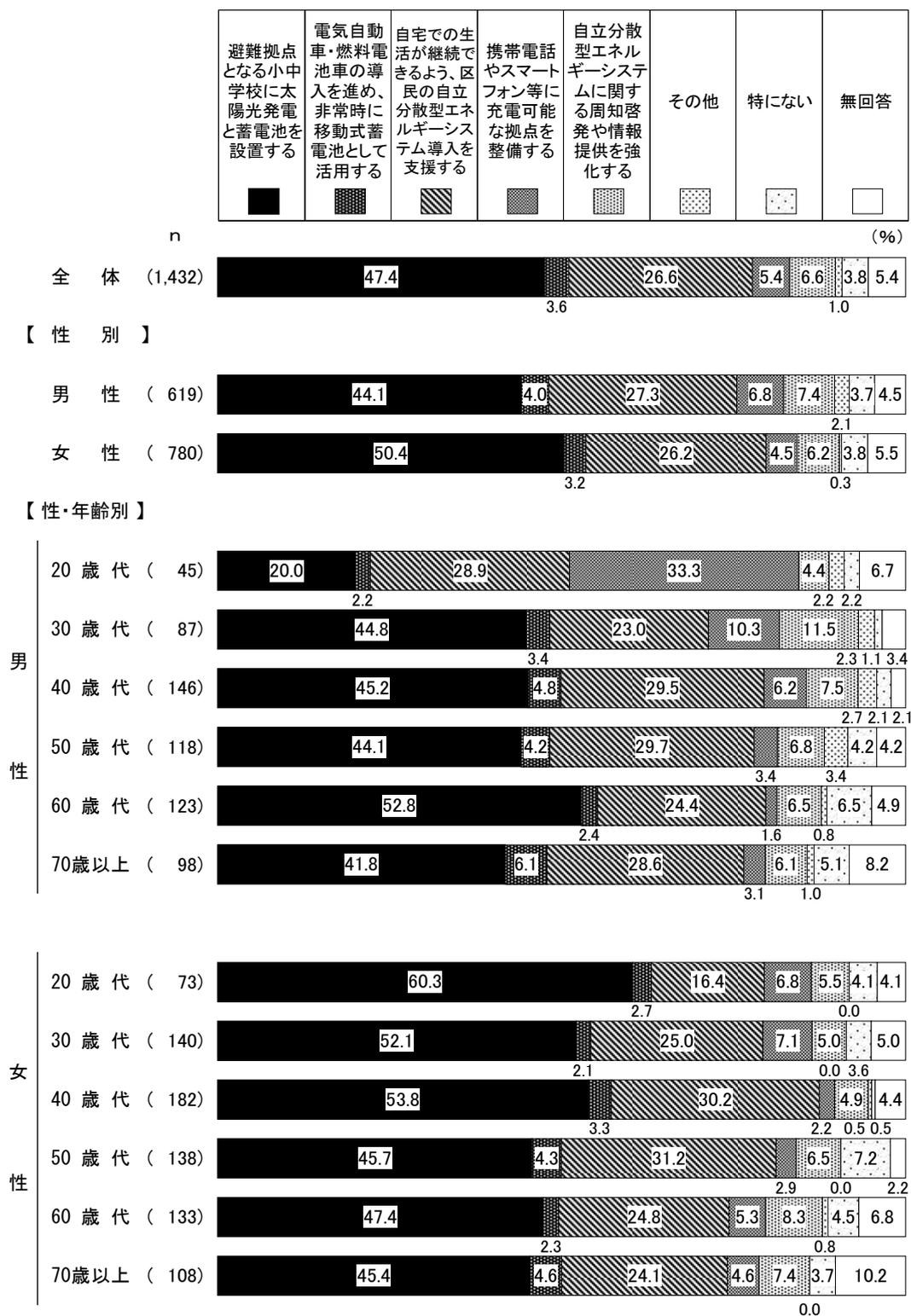
優先すべき災害時のエネルギー政策を聞いたところ、「避難拠点となる小中学校に太陽光発電と蓄電池を設置する」(47.4%)が5割近くで最も多く、次いで「自宅での生活が継続できるよう、区民の自立分散型エネルギーシステム導入を支援する」(26.6%)の順になっている。(図4-2-1)

図4-2-2 優先すべき災害時のエネルギー政策—地区別



地区別にみると、「避難拠点となる小中学校に太陽光発電と蓄電池を設置する」はIV地区（〒179）で5割と多くなっている。「自宅での生活が継続できるよう、区民の自立分散型エネルギーシステム導入を支援する」はIII地区（〒178）ではほぼ3割と多くなっている。（図4-2-2）

図 4-2-3 優先すべき災害時のエネルギー政策－性別・性年齢別



性・年齢別にみると、「避難拠点となる小中学校に太陽光発電と蓄電池を設置する」は女性20歳代で6割と多くなっている。「自宅での生活が継続できるよう、区民の自立分散型エネルギーシステム導入を支援する」は女性の40歳代と50歳代で3割台と多くなっている。「携帯電話やスマートフォン等に充電可能な拠点を整備する」は男性20歳代で3割を超えて多くなっている。(図4-2-3)

(3) 再生可能エネルギー及び省エネルギー設備の認知度

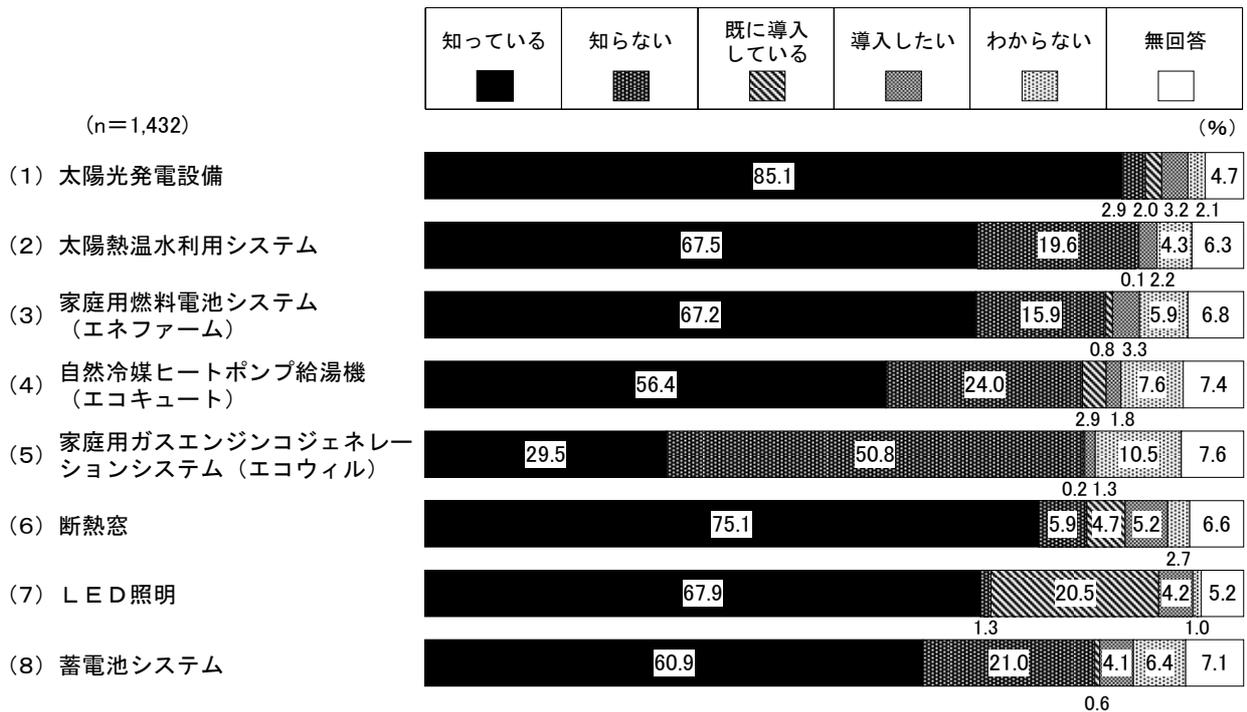
- ◇「知っている」は、「(1) 太陽光発電設備」で8割半ば、「(6) 断熱窓」で7割半ば
- 「知らない」は、「(5) 家庭用ガスエンジンコージェネレーションシステム」でほぼ5割
- 「既に導入している」は、「(7) LED照明」でほぼ2割

問29 あなたは、次の再生可能エネルギーおよび省エネルギー設備についてご存じでしたか。

※再生可能エネルギー…太陽光、風力、水力等永続的に利用することができるエネルギー

(各項目 ○は1つ)

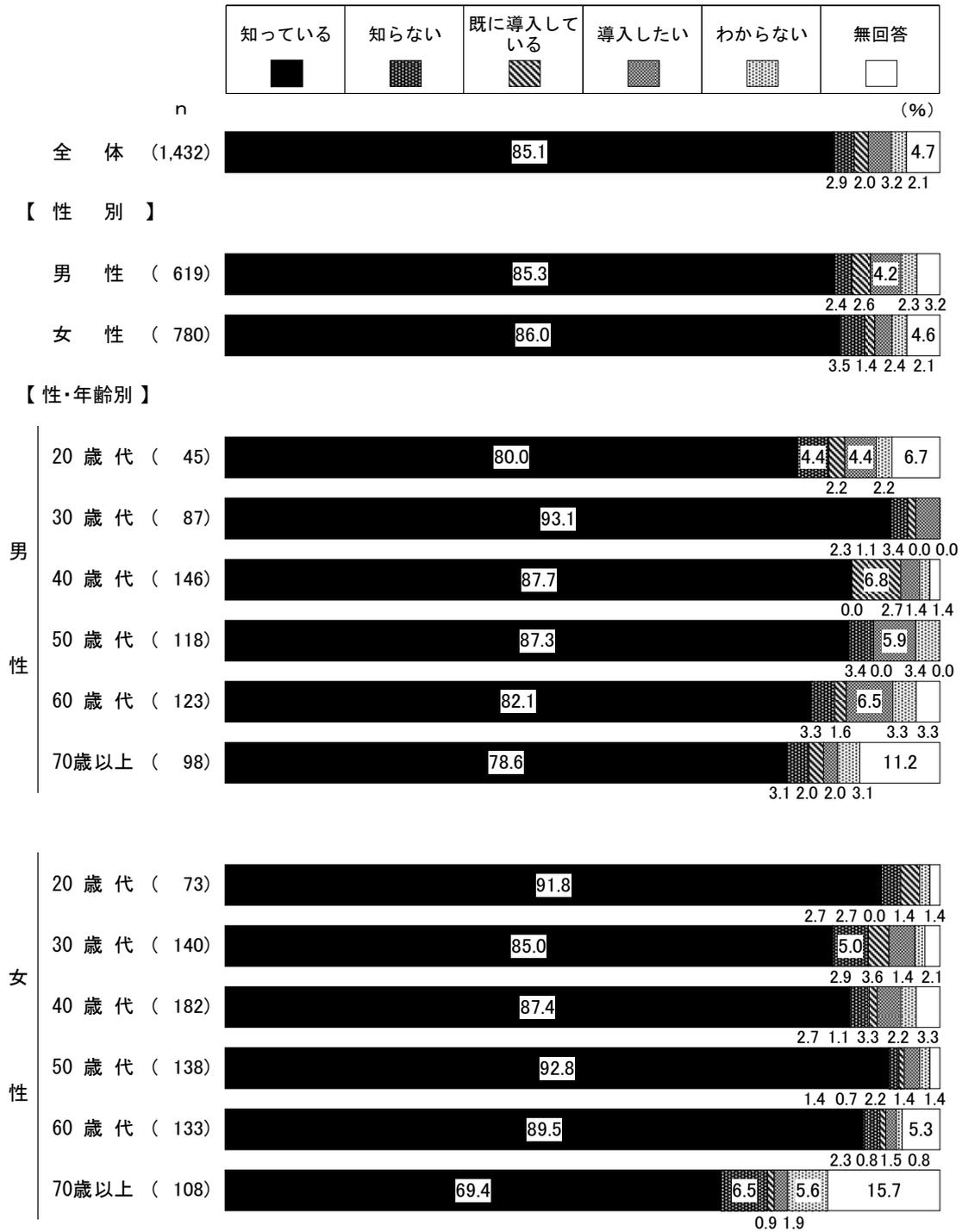
図4-3-1 再生可能エネルギー及び省エネルギー設備の認知度



再生可能エネルギー及び省エネルギー設備を知っているか聞いたところ、「知っている」は、(1) 太陽光発電設備 (85.1%) で8割半ば、「(6) 断熱窓 (75.1%) で7割半ばと多くなっている。一方、「知らない」は、(5) 家庭用ガスエンジンコージェネレーションシステム (エコウィル) (50.8%) でほぼ5割と多くなっている。「既に導入している」は、(7) LED照明 (20.5%) でほぼ2割と多くなっている。(図4-3-1)

図4-3-2 再生可能エネルギー及び省エネルギー設備の認知度

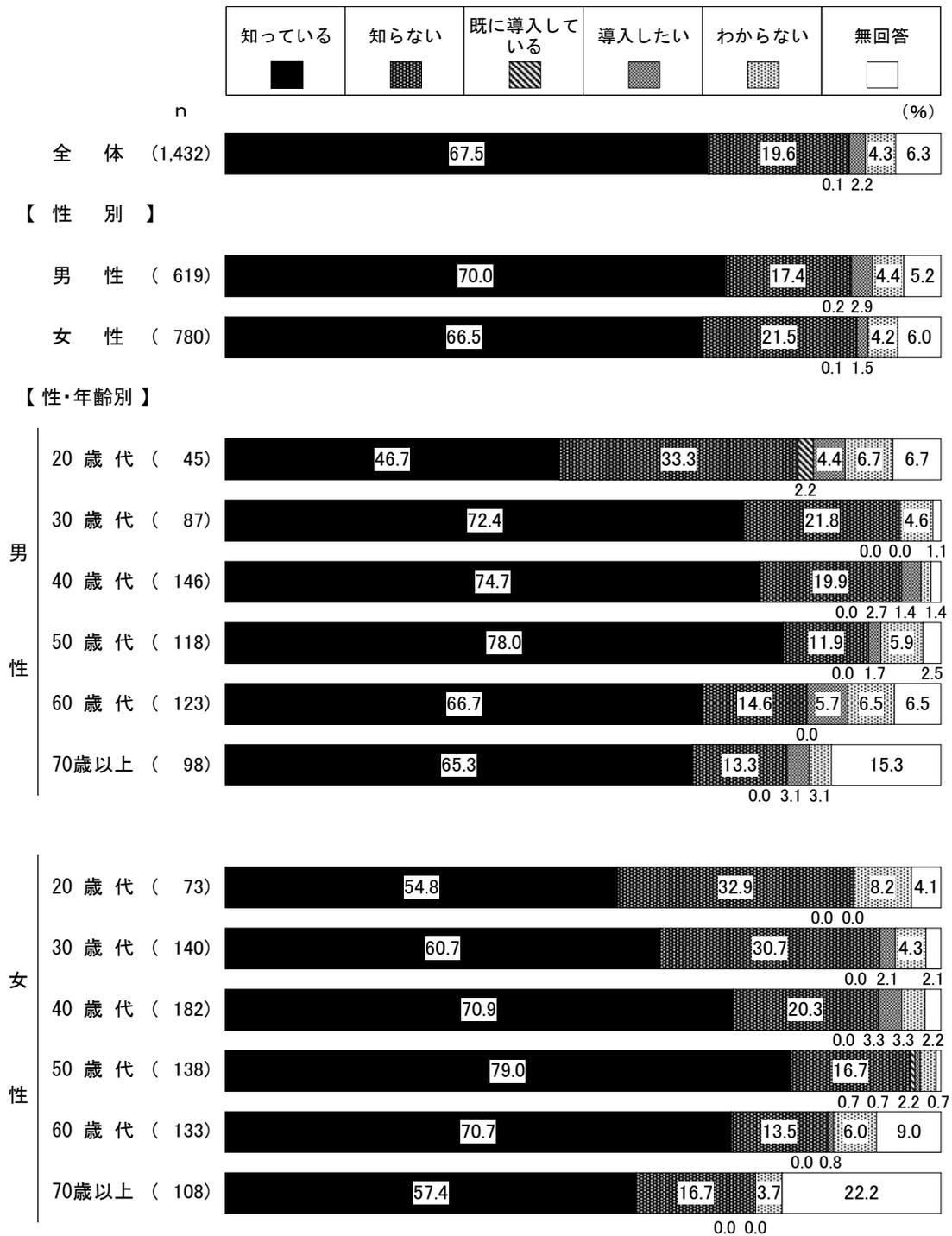
(1) 太陽光発電設備一性別、性・年齢別



性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

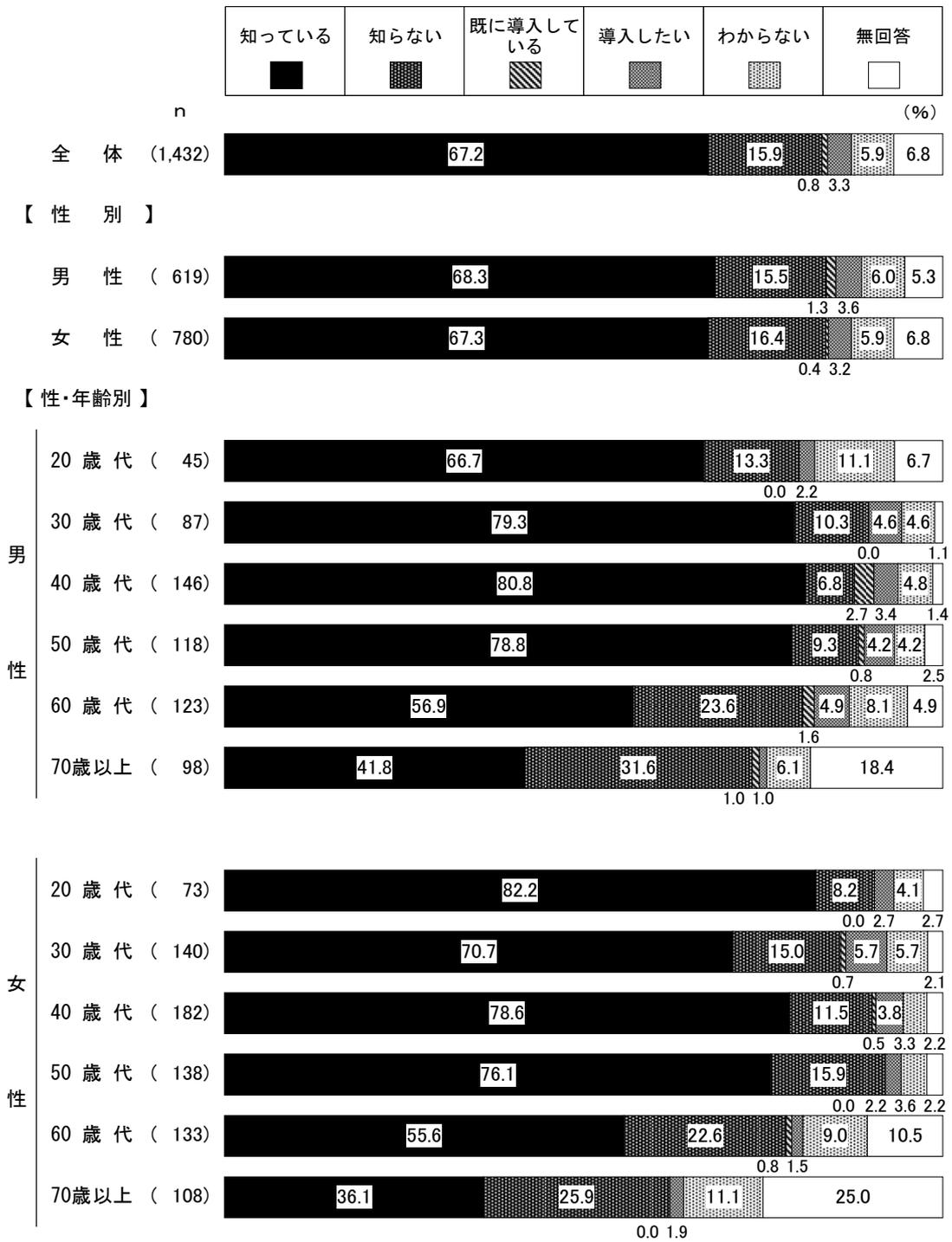
性・年齢別にみると、「知っている」は男性30歳代、女性の20歳代と50歳代で9割を超えて多くなっている。(図4-3-2)

図4-3-3 再生可能エネルギー及び省エネルギー設備の認知度  
 (2) 太陽熱温水利用システム—性別、性・年齢別



性・年齢別にみると、「知っている」は女性50歳代でほぼ8割、男性50歳代で8割近くと多くなっている。「知らない」は男女ともに20歳代で3割を超えて多くなっている。(図4-3-3)

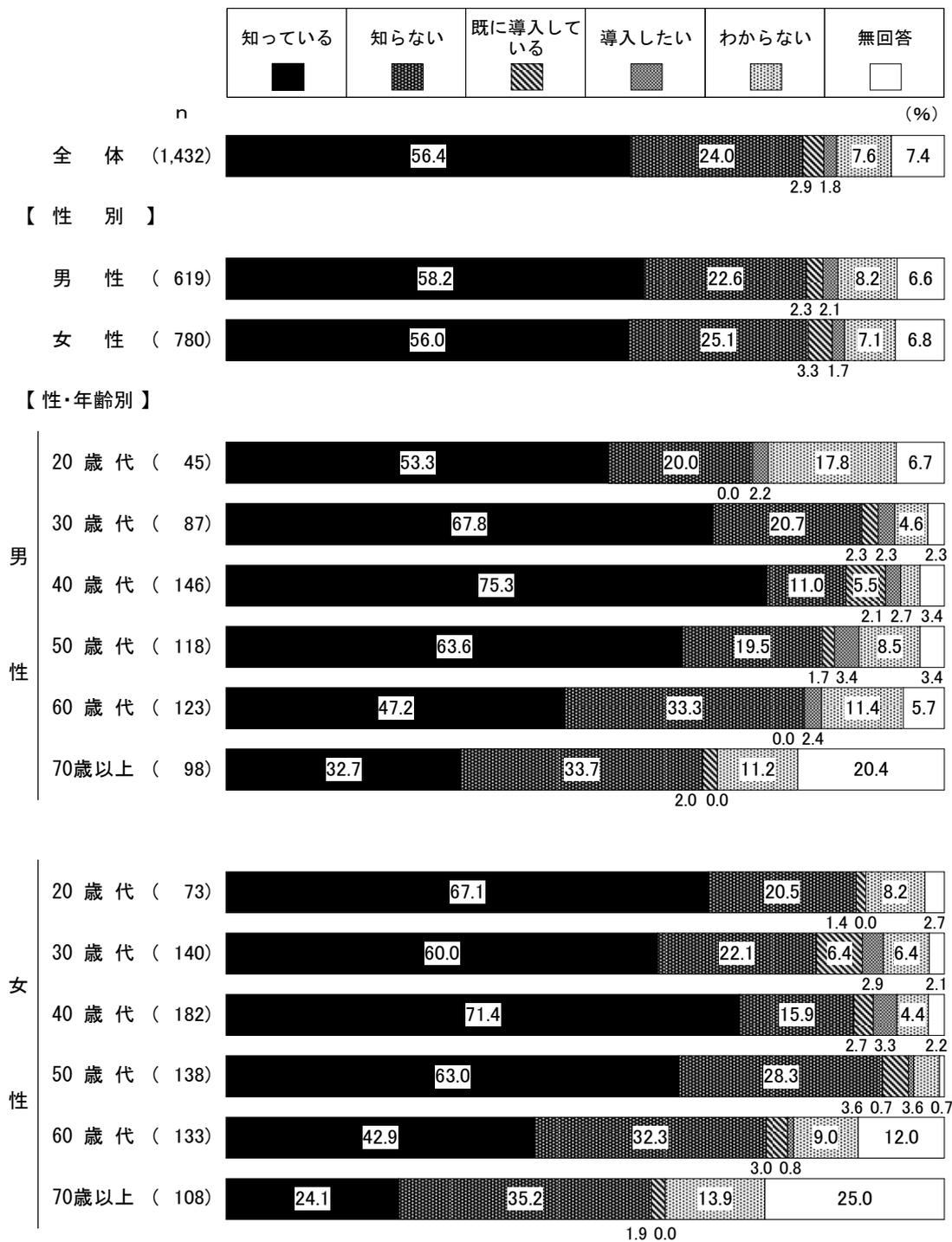
図4-3-4 再生可能エネルギー及び省エネルギー設備の認知度  
 (3) 家庭用燃料電池システム(エネファーム) - 性別、性・年齢別



性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

性・年齢別にみると、「知っている」は女性20歳代と男性40歳代で8割台と多くなっている。「知らない」は男性70歳以上で3割を超え、女性70歳以上で2割半ばと多くなっている。(図4-3-4)

図4-3-5 再生可能エネルギー及び省エネルギー設備の認知度  
 (4) 自然冷媒ヒートポンプ給湯機(エコキュート) - 性別、性・年齢別

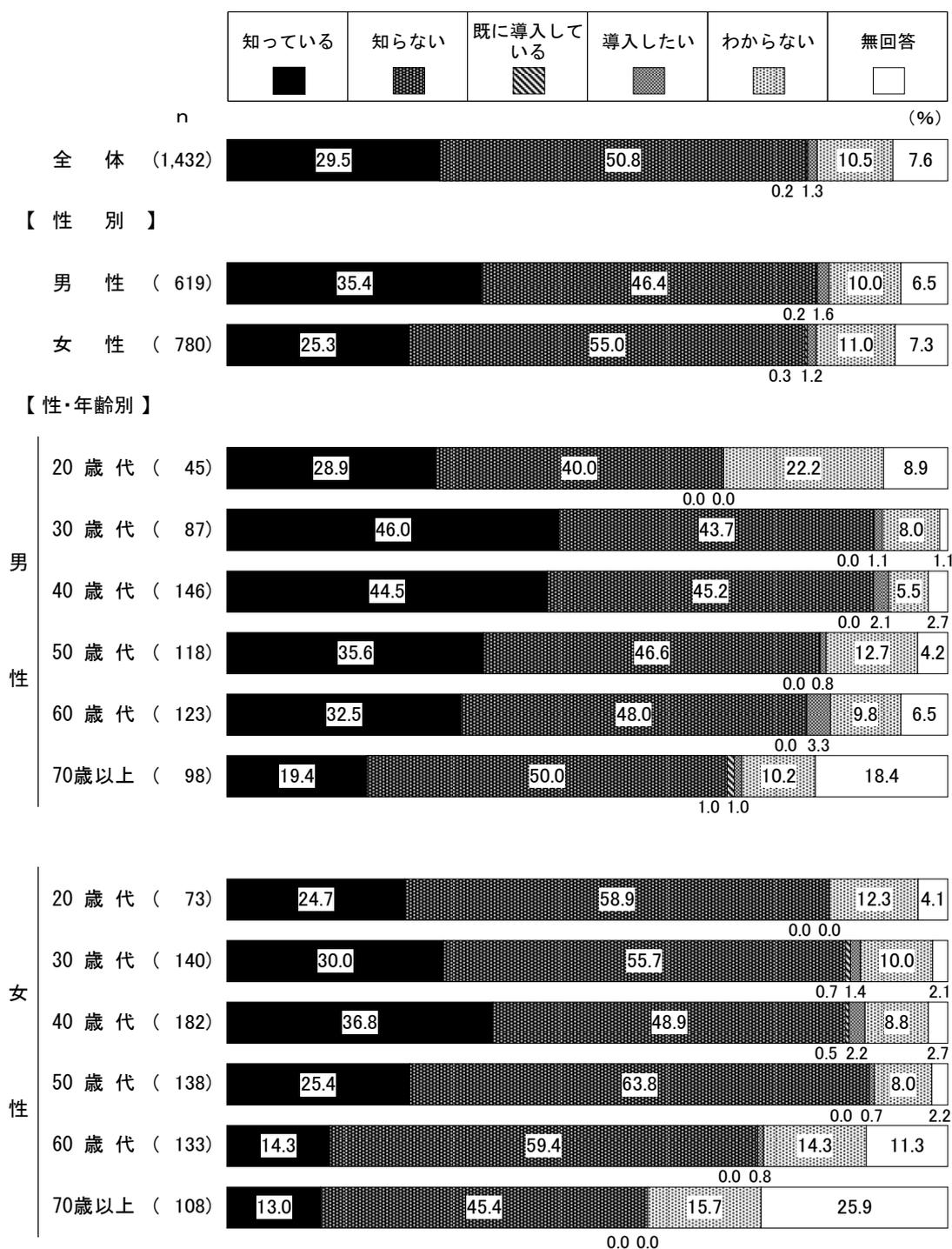


性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

性・年齢別にみると、「知っている」は男性40歳代で7割半ば、女性40歳代で7割を超えて多くなっている。「知らない」は男女ともに60歳代以上の年代で3割台と多くなっている。(図4-3-5)

図4-3-6 再生可能エネルギー及び省エネルギー設備の認知度

(5) 家庭用ガスエンジンコージェネレーションシステム（エコウィル）－性別、性・年齢別

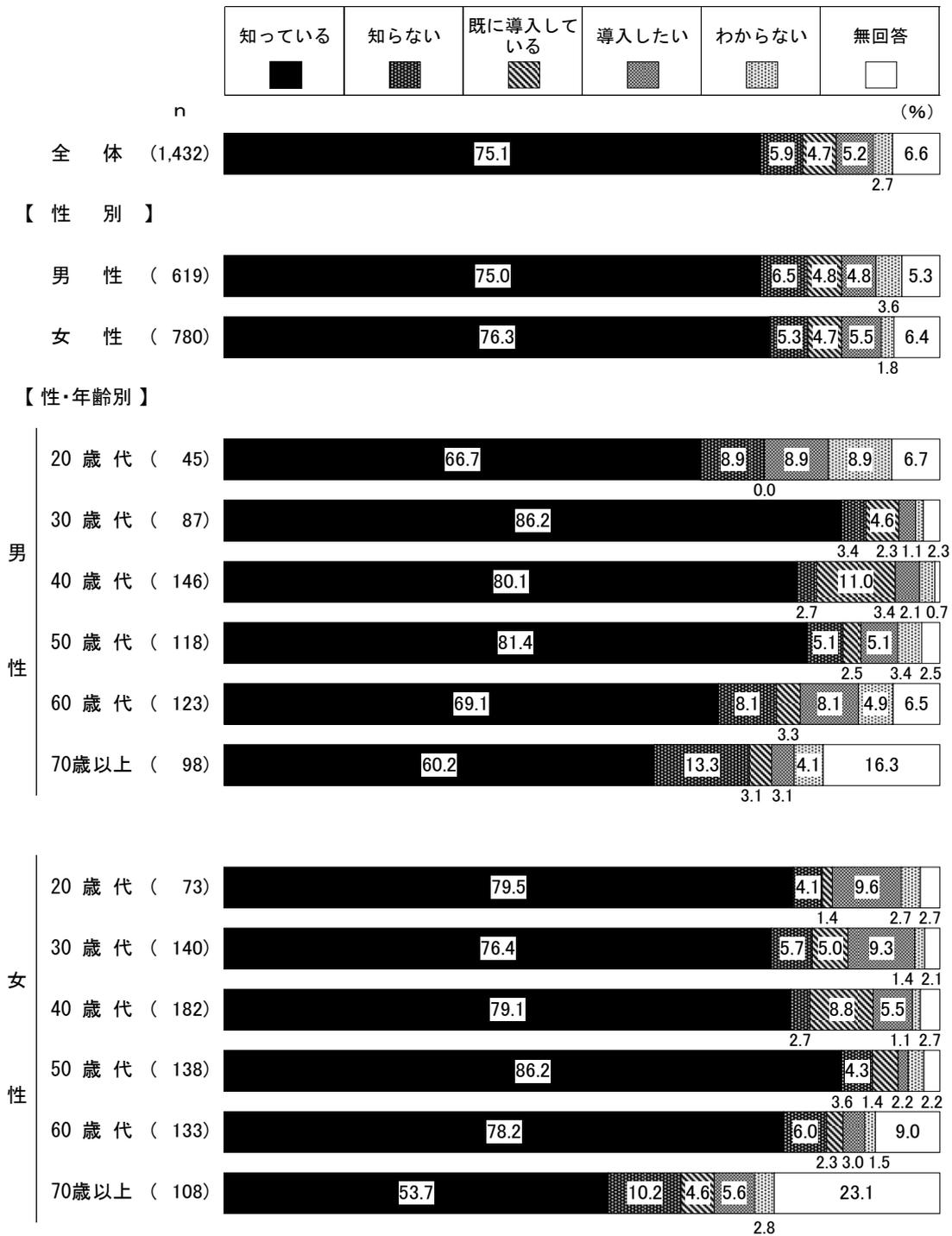


性別にみると、「知っている」は男性の方が10.1ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「知っている」は男性の30歳代と40歳代で4割半ばと多くなっている。「知らない」は女性50歳代で6割を超え、女性60歳代でほぼ6割と多くなっている。(図4-3-6)

図4-3-7 再生可能エネルギー及び省エネルギー設備の認知度

(6) 断熱窓－性別、性・年齢別

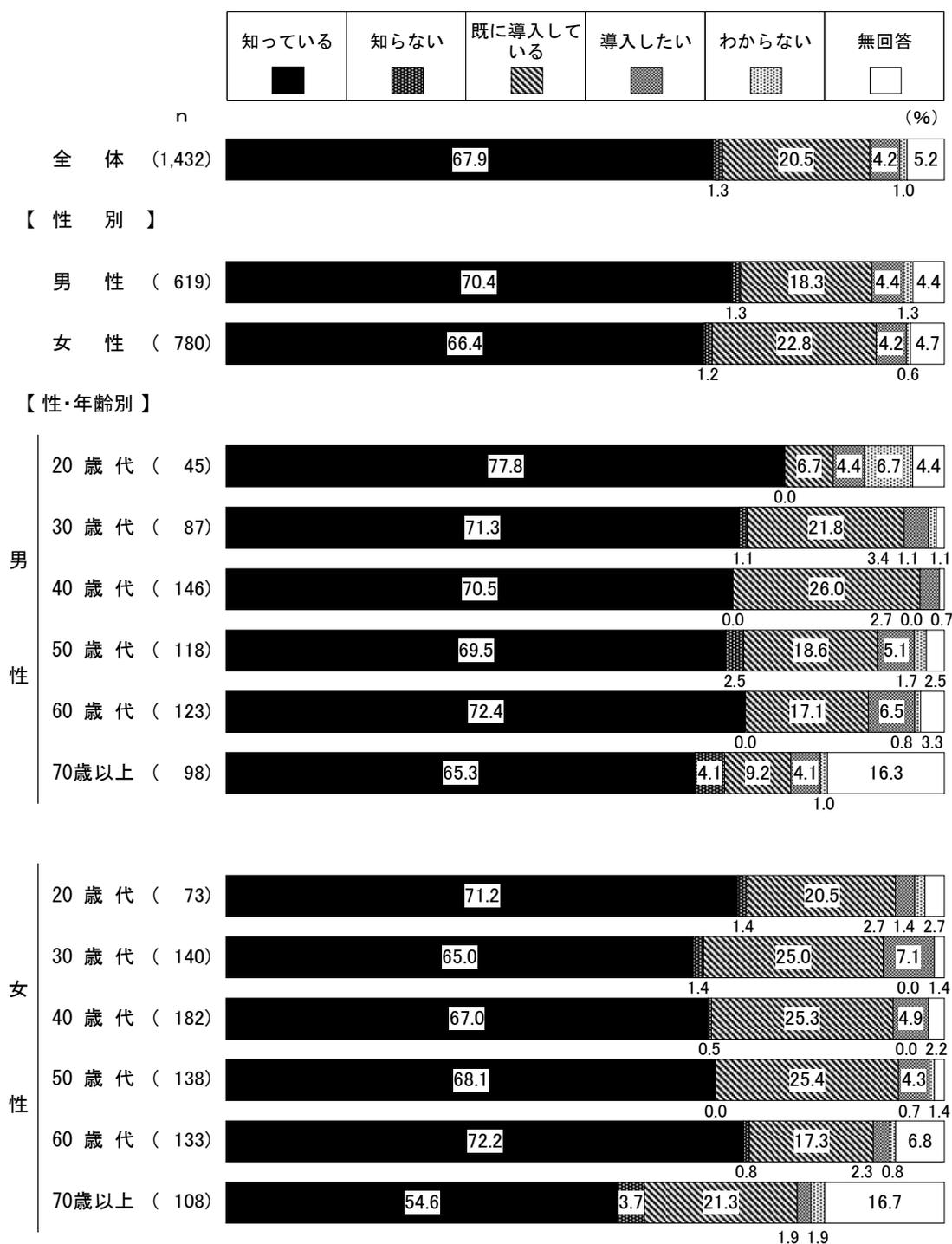


性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

性・年齢別にみると、「知っている」は男性30歳代と女性50歳代で8割半ばと多くなっている。

(図4-3-7)

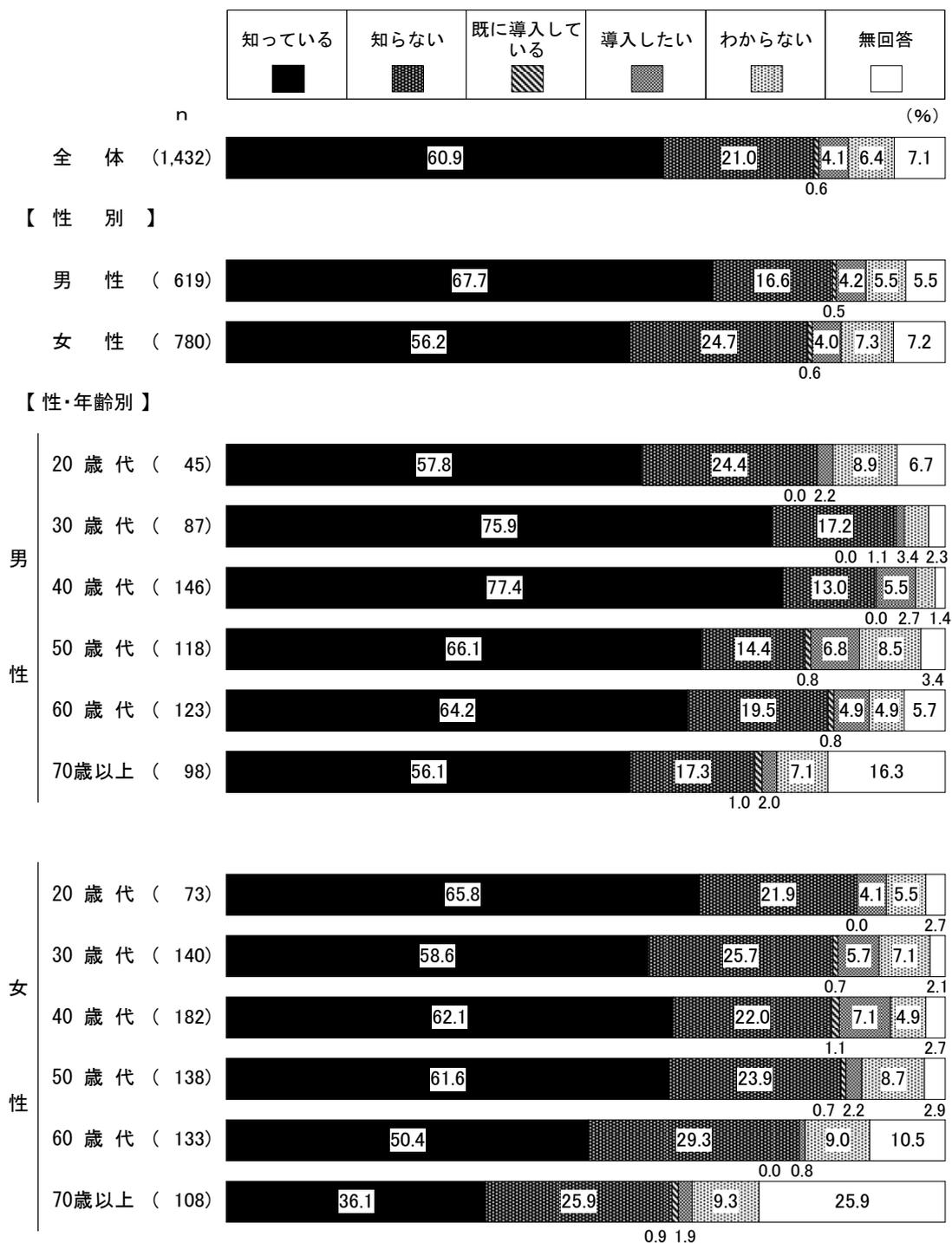
図4-3-8 再生可能エネルギー及び省エネルギー設備の認知度  
 (7) LED照明—性別、性・年齢別



性・年齢別にみると、「知っている」は男性20歳代で8割近くと多くなっている。「既に導入している」は男性40歳代と女性の30歳代から50歳代で2割半ばと多くなっている。(図4-3-8)

図4-3-9 再生可能エネルギー及び省エネルギー設備の認知度

(8) 蓄電池システム—性別、性・年齢別



性別にみると、「知っている」は男性の方が11.5ポイント高くなっている。

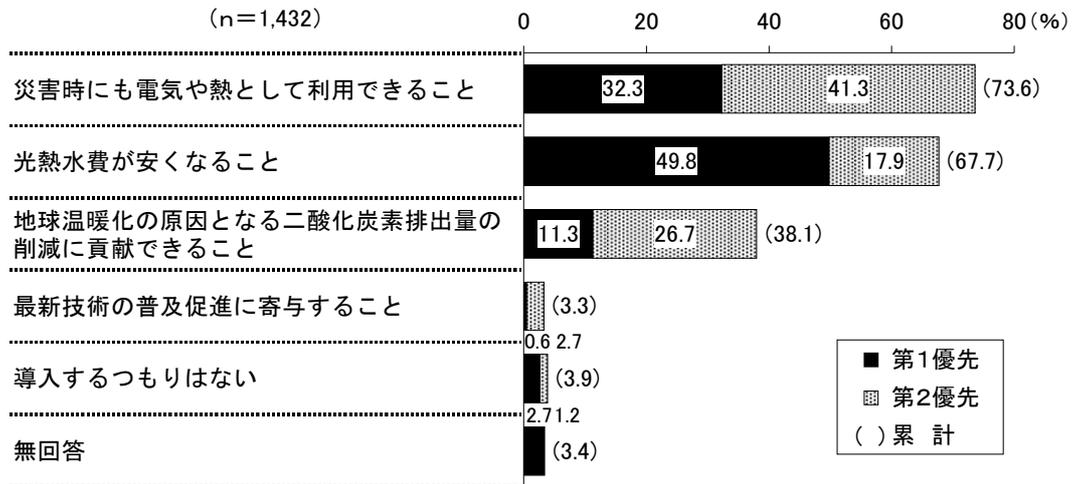
性・年齢別にみると、「知っている」は男性40歳代で8割近く、男性30歳代で7割半ばと多くなっている。「知らない」は女性60歳代でほぼ3割、女性の30歳代と70歳以上、男性20歳代で2割半ばと多くなっている。(図4-3-9)

(4) 設備を導入する際に重視すること

◇「災害時にも電気や熱として利用できること」が7割を超える

問30 あなたが上記の設備を導入するとしたら、最も重視する項目は何ですか。次の中から優先度の高い順に2つまで選んで解答欄に記入してください。

図4-4-1 設備を導入する際に重視すること



設備を導入する際に重視することについて、第1優先、第2優先を挙げてもらった。第1優先をみると、「光熱水費が安くなること」(49.8%)で5割と最も多くなっている。また、第1優先、第2優先の累計をみると、「災害時にも電気や熱として利用できること」(73.6%)が7割を超えて最も多く、次いで「光熱水費が安くなること」(67.7%)、「地球温暖化の原因となる二酸化炭素排出量の削減に貢献できること」(38.1%)などの順になっている。(図4-4-1)

表4-4-1 設備を導入する際に重視すること（累計）－性別、性・年齢別

(%)

	n	災害時にも電気や熱として利用できること	光熱水費が安くなること	地球温暖化の原因となる二酸化炭素排出量の削減に貢献できること	最新技術の普及促進に寄与すること	導入するつもりはない	無回答	
全体	1,432	73.6	67.7	38.1	3.3	3.9	3.4	
【性別】								
男性	619	70.4	71.2	35.1	5.2	5.3	2.4	
女性	780	77.1	66.2	40.9	1.8	2.6	3.1	
【性・年齢別】								
男性	20歳代	45	57.8	73.3	33.3	11.1	8.9	4.4
	30歳代	87	73.6	89.7	19.5	3.4	5.7	1.1
	40歳代	146	74.7	78.8	33.6	2.7	2.1	2.1
	50歳代	118	78.0	66.9	39.8	3.4	3.4	0.0
	60歳代	123	69.1	67.5	43.9	6.5	4.9	0.8
	70歳以上	98	59.2	53.1	34.7	8.2	11.2	8.2
女性	20歳代	73	79.5	82.2	27.4	4.1	1.4	2.7
	30歳代	140	82.1	79.3	31.4	0.7	0.7	1.4
	40歳代	182	83.0	69.2	38.5	1.1	0.5	1.1
	50歳代	138	79.7	64.5	44.9	1.4	0.7	2.2
	60歳代	133	70.7	51.1	51.9	3.8	5.3	4.5
	70歳以上	108	62.0	51.9	50.0	0.9	8.3	8.3

性・年齢別にみると、「災害時にも電気や熱として利用できること」は女性の30歳代と40歳代で8割を超えて多くなっている。「光熱水費が安くなること」は男性30歳代で9割と多くなっている。「地球温暖化の原因となる二酸化炭素排出量の削減に貢献できること」は女性の60歳代以上の年代で5割台と多くなっている。(表4-4-1)

表4-4-2 設備を導入する際に重視すること（累計）－ライフステージ別

(%)

	n	災害時にも電気や熱として利用できること	光熱水費が安くなること	地球温暖化の原因となる二酸化炭素排出量の削減に貢献できること	最新技術の普及促進に寄与すること	導入するつもりはない	無回答
全 体	1,432	73.6	67.7	38.1	3.3	3.9	3.4
<b>【ライフステージ別】</b>							
独 身 期	157	72.6	79.0	29.9	4.5	5.7	2.5
家 族 形 成 期	180	81.7	86.7	20.0	3.9	1.1	1.7
家 族 成 長 前 期	138	82.6	73.2	37.0	0.7	0.7	0.0
家 族 成 長 後 期	151	80.1	71.5	39.7	1.3	0.7	0.7
家 族 成 熟 期	183	79.8	66.7	41.0	2.7	2.2	0.0
高 齢 期	327	62.4	55.7	47.4	5.8	8.6	4.6
そ の 他	232	75.9	65.1	43.5	1.7	2.6	2.6

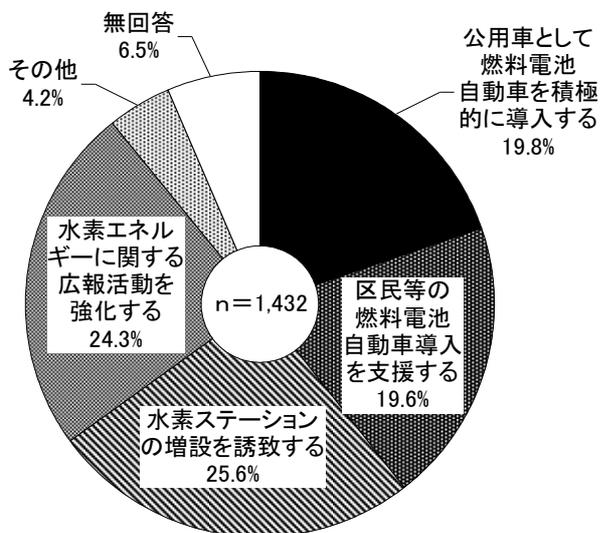
ライフステージ別にみると、「災害時にも電気や熱として利用できること」は家族成長前期と家族形成期で8割を超えて多くなっている。「光熱水費が安くなること」は家族形成期で9割近くと多くなっている。「地球温暖化の原因となる二酸化炭素排出量の削減に貢献できること」は高齢期で5割近くと多くなっている。(表4-4-2)

(5) 水素エネルギー普及に必要な区の実施

◇「水素ステーションの増設を誘致する」と「水素エネルギーに関する広報活動を強化する」が2割半ば

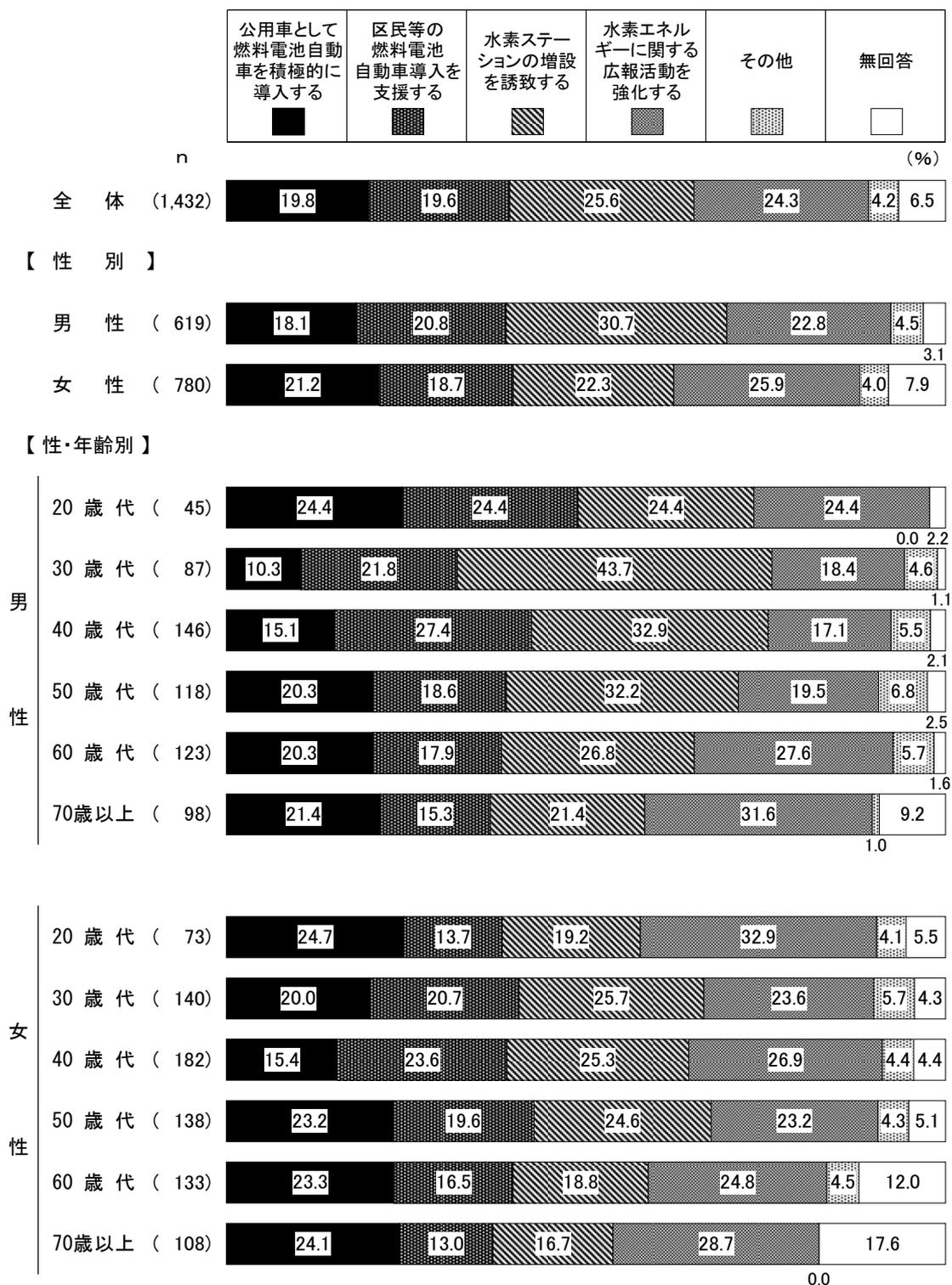
問31 平成26年12月に練馬区谷原に関東で初めての商用水素ステーションが開設され、今年7月には区は公用車として燃料電池自動車を導入しました。水素はエネルギーを利用する段階で二酸化炭素を排出せず、利用後に残るのは水だけであることから地球環境への負荷が小さい優れた燃料として期待されています。水素エネルギーの普及に必要な区の実施は何だと思えますか。(〇は1つ)

図4-5-1 水素エネルギー普及に必要な区の実施



水素エネルギー普及に必要な区の実施を聞いたところ、「水素ステーションの増設を誘致する」(25.6%)が2割半ばで最も多く、次いで「水素エネルギーに関する広報活動を強化する」(24.3%)、「公用車として燃料電池自動車を積極的に導入する」(19.8%)、「区民等の燃料電池自動車導入を支援する」(19.6%)の順になっている。(図4-5-1)

図 4-5-2 水素エネルギー普及に必要なと思う区の実施策—性別、性・年齢別



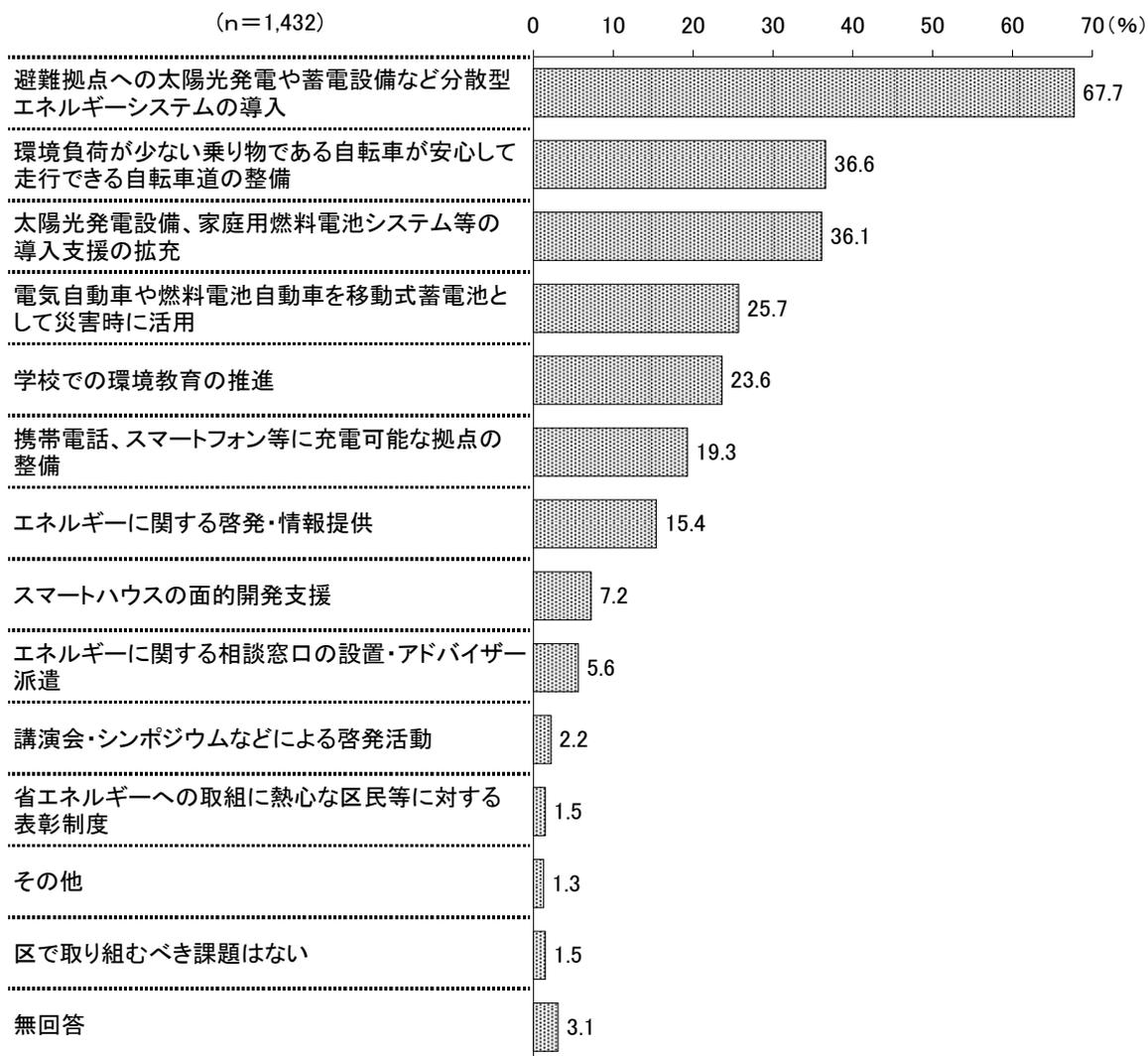
性・年齢別にみると、「水素ステーションの増設を誘致する」は男性 30 歳代で 4 割を超え、「水素エネルギーに関する広報活動を強化する」は女性 20 歳代と男性 70 歳以上で 3 割を超えて多くなっている。「公用車として燃料電池自動車を積極的に導入する」は女性の 20 歳代と 70 歳以上、男性 20 歳代で 4 割を超えて多くなっている。(図 4-5-2)

(6) 区が取り組むべきエネルギーへの課題

◇「避難拠点への太陽光発電や蓄電設備など分散型エネルギーシステムの導入」が7割近く

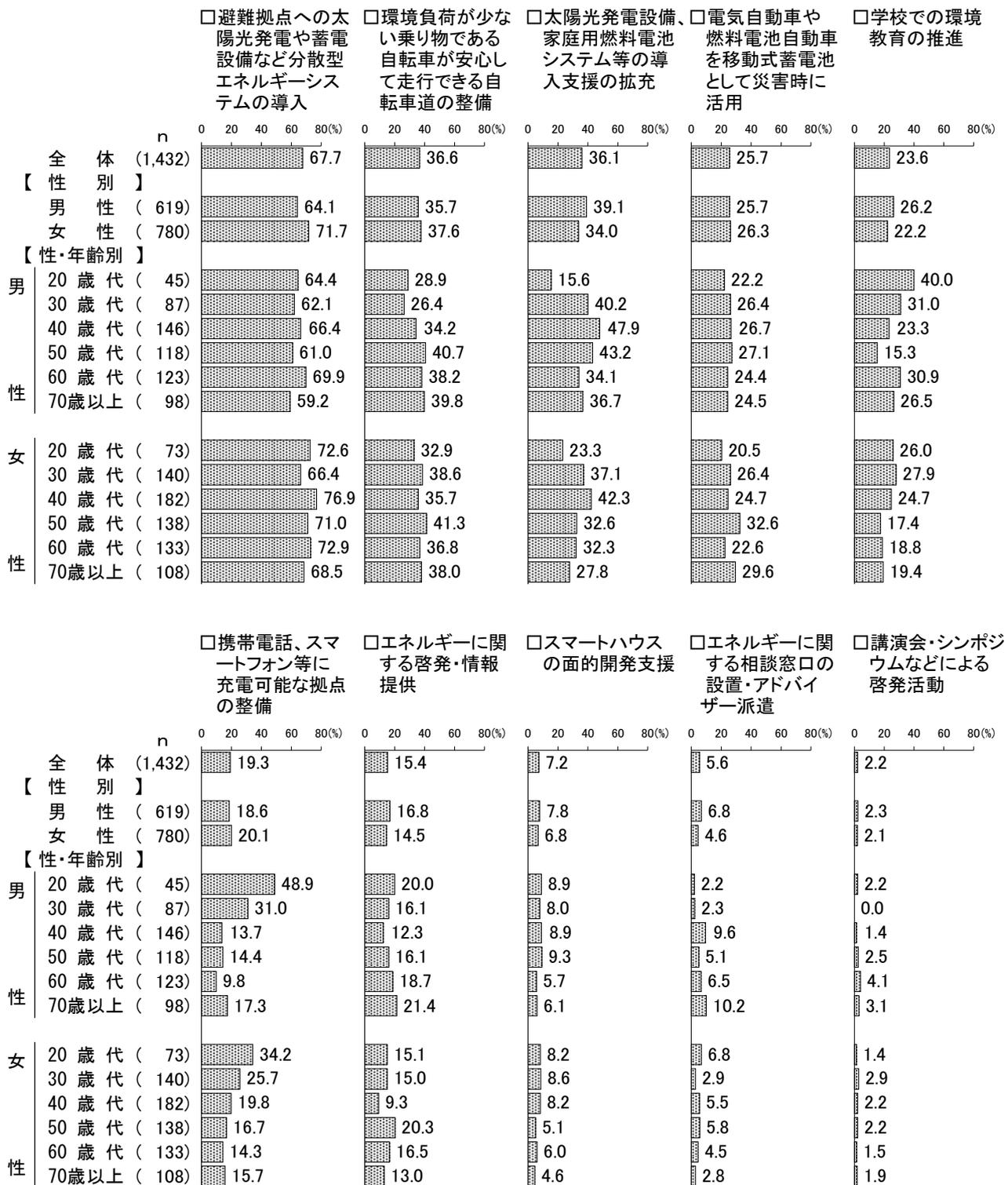
問32 練馬区が、今後取り組むべきエネルギーへの課題は何だと思えますか。(〇は3つまで)

図4-6-1 区が取り組むべきエネルギーへの課題



今後取り組むべきエネルギーへの課題を聞いたところ、「避難拠点への太陽光発電や蓄電設備など分散型エネルギーシステムの導入」(67.7%)が7割近くで最も多く、次いで「環境負荷が少ない乗り物である自転車が安心して走行できる自転車道の整備」(36.6%)、「太陽光発電設備、家庭用燃料電池システム等の導入支援の拡充」(36.1%)、「電気自動車や燃料電池自動車を移動式蓄電池として災害時に活用」(25.7%)などの順になっている。(図4-6-1)

図4-6-2 区が取り組むべきエネルギーへの課題—性別、性・年齢別



性・年齢別にみると、「太陽光発電設備、家庭用燃料電池システム等の導入支援の拡充」は男性40歳代で5割近くと多くなっている。「携帯電話、スマートフォン等に充電可能な拠点の整備」は男性20歳代で5割近く、女性20歳代で3割半ばと多くなっている。(図4-6-2)